

西宮市議会議員 はまぐち仁士

街の声を大切に作る身近な政治を目指して



- | | |
|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 1 財政支出が数十億円!
甲子園浜に人工芝の
グラウンド整備計画 | 2 帰宅せずに無料で利用
できる放課後の居場所
事業がスタートします! |
| 3 夙川公園の桜に危機!?
ナラタケモドキの脅威に
市民団体が活躍!! | 4 小学校で発生した教諭
による児童盗撮事件
再発防止の徹底を! |

市政報告 No.15 2019年3月

プロフィール 1972年6月西宮生まれ。樋之池町在住。既婚3児の父。市立大社幼稚園、市立苦楽園小学校、市立苦楽園中学校、兵庫県立西宮甲山高等学校卒業。16年間の飲食店経営を経て2015年西宮市議会議員選挙にて1983名からのご信託を頂き初当選。2018年教育こども常任委員会副委員長を拝命。

1 土地の買い戻し費用も含め数十億円規模となる甲子園浜多目的人工芝グラウンドの整備はその必要性や利用実態を検証しながら計画的かつ慎重に検討を進めることが重要です!



市内で唯一の人工芝を有する西宮浜多目的人工芝グラウンドは稼働率が大変高く、利用が困難な状態となっています。そこで市はゴルフ練習場として貸し出しを行っている甲子園浜の土地を買い戻し、多目的人工芝グラウンドを含む公園として整備することを検討しています。

必要性が高ければ、私も多目的グラウンドを整備すべきだと考えます。しかし、私はこの整備方針には慎重であるべきだと考えています。その理由として

■利用が困難とされている西宮浜人工芝多目的グラウンドの利用申し込みのうち、申し込み全体の約半数が**利用実績を確認できない団体**によるものだった

■こうした問題を放置すれば公平性が担保されないだけでなく、**施設に対する需要が正確に把握できない**

■2025年完成予定の新陸上競技場内人工芝グラウンドより先に甲子園浜多目的人工芝グラウンドを整備することとなり、その影響が全く考慮されない(図1参照)

■甲子園浜にグラウンドを整備することは、臨港線の南側にグラウンドが集中することとなり、**適正配置**の観点から適切とは言えない(図2参照)

などがあげられます。

また**54億円**が必要となる土地の買い戻しについても

■平成29年度における経常収支比率が**96.3%**と硬直化しており、決して財政に余裕がある状態ではない

■第5次総合計画では今後10年間で、平成30年度末に274億円となっている基金残高が**15億円まで取り崩す可能性があると示されている**

■阪神淡路大震災では**基金残高が124億円減少していることを考慮すれば、計画中の基金の取り崩しは今後発生が予測される大災害への対応に不安が生じる**などの理由から、急ぐ必要はないと考えます。

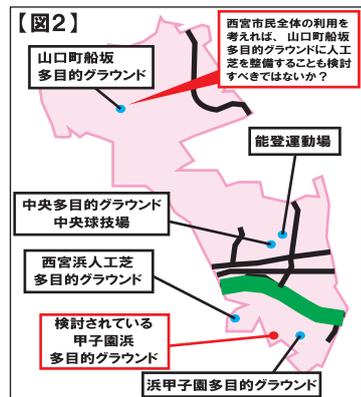
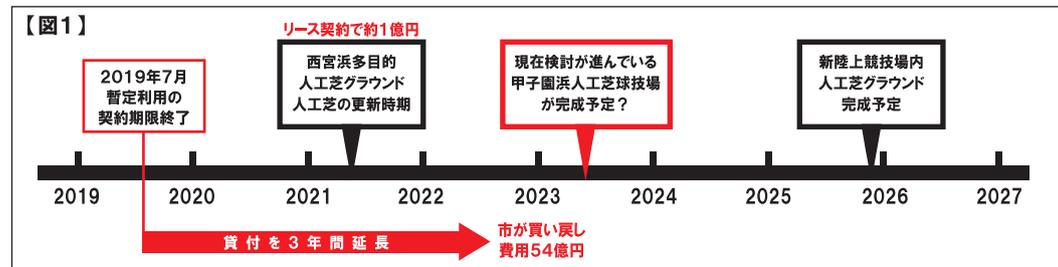
*内容の一部誤りがあった為、青線の部分を修正しました。

こうした私の考えに対して、市は「10年を超える長期貸賃を国は認めておらず、早期の買い戻しは必要。」とした上で、準備期間として**貸し出し期限を3年延長**し、その後買い戻しを行う予定です。

しかし、**買い戻しの時期を遅らせることは可能である**ことが、私の一般質問によって明らかとなっています。私は市に対して「**新陸上競技場内人工芝グラウンドが整備された後の利用実態を踏まえた上で、改めてその必要性を検証し、必要であれば整備を行う目的で買い戻すべきだ**」と提言しました。

また提案として、2021年頃に予定されている西宮浜多目的人工芝グラウンドの人工芝更新に伴い、**山口町船坂多目的グラウンドに人工芝を整備することも検討すべき**です。適正配置の観点に加え、新規にグラウンドを整備するよりも費用が抑えられることから有効だと考えます。

今回示された事業内容は検証も足りず、計画性も見えません。このままこの事業を進めるのであれば、**グラウンドを利用しない多くの市民への理解を得ることは難しいのではないかと**考えます。



2 全児童が帰宅せず、無料で夕方5時まで放課後を利用できる「子供の居場所づくり事業」は育成センターの待機児童対策だけでなく地域コミュニティの活性にも期待が持てます！



市は教室や体育館等を活用した**新方式の「子供の居場所づくり事業」**の実施を検討していることが、3月定例会の質疑で明らかとなりました。今後は留守家庭児童育成センター（以下、「育成センター」）の待機児童が見込まれている2校を選定し、**パイロット実施**の開始を予定しています。

パイロット実施の内容を確認したところ

- 授業終了後に一旦下校することなく直接参加が可能
- 授業のある日は**夕方5時まで実施**
- 夏休みなど長期休業中は**朝8時半～夕方5時まで実施**
- 参加登録制（**利用料金は無料**）

となっており、育成センターの利用ニーズに対応した運用となっています。

この子供の居場所づくり事業が実施されることで

- 今後の育成センターの待機児童の解消

■高学年児童の受入れ課題の解消

■育成センターを利用しない児童の安全な遊び場の確保に期待が持てるだけでなく、新たな育成センター施設の整備に必要な費用を抑制する事も可能となります。

子供の居場所づくり事業を、ただの居場所にしてはなりません。放課後を活用して**子供たちに様々な体験をさせる有意義な時間を過ごせる居場所**とすべきです。その為には地域の方々によるご協力が不可欠です。こうして地域コミュニティが活性化されることで、子供達が地域の大人達と顔見知りになり、地域防犯力が高まる期待もあります。

1年前に私が提言した事業が実現に向けて進んでいることを、大変嬉しく思います。効果的でより良い子供の居場所づくり事業として進めていただくよう要望しました。

3 夙川公園の桜は市民の皆様だけでなく、観光客をも魅了する西宮市のシンボルです！その桜が見られなくなる危険性が迫っており、一刻も早い対応が求められています！



春になると桜が満開となる夙川公園は、市内街から多くの観光客が訪れ、「さくら名所100選」にも選定された観光資源です。一方で、この西宮市の象徴とされる桜に危機が迫っています。

近年**ナラタケモドキ**が夙川公園で発見されています。このキノコは桜の木を枯らすだけでなく、たとえナラタケモドキを除去したとしても、土壌を新しく取り替えないと植樹も出来ません。状況が悪化すれば、今後の夙川公園の桜の保全に深刻な影響を及ぼす可能性もあることから、早急な対応が求められます。

市は平成14年から「**桜の名所再生事業**」に取り組み、市民ボランティアグループと連携して、桜の保全に関する調査・研究を行っています。

この活動を支えるのは**緑化基金**です。ナラタケモドキの危機やボランティアの方々の活動をより多くの市民に知っていただくことで、緑化基金への寄付が安定化するよう周知の徹底を要望しました。



4 昨年10月に担任の教師が学校のトイレで女児を盗撮する事件が発生しました。保護者や他の学校教諭への信頼をこれ以上失墜させない為にも、具体的な対策が求められます！



市内小学校に勤務する男性教諭が、昨年10月に**学校の女子トイレで盗撮したとして逮捕**されました。事件を起こした教諭は同年12月末に**懲戒免職**となっています。

この事件によって、**被害を受けた女児の心に大きな傷を残しただけでなく、児童を預ける保護者の皆様における学校への信頼、学校現場で真摯に指導を行っている教職員の方々の信頼をも失墜**させました。こうした影響を考慮すれば、今後このような事件は二度と起こしてはなりません。

新聞報道によれば、今回の事件で盗撮に使用されたのは**加害者個人が所持するスマートフォン**でした。私は「個

人のスマートフォンなど盗撮に利用されやすい教職員の私物について、**職員室内で鍵付きのロッカー等に保管を行うなど管理徹底を図るべきだ**」と訴えました。

しかし教育委員会は「スマートフォンなど不要な情報機器の教室への持ち込みの禁止や、私物情報機器の不適切な使用の禁止、記録メディアの適正な管理など、校園長を通じて**周知徹底**を図った」との答弁に止まり、私が提案する具体的な対応には言及しませんでした。

学校現場への信頼は回復しなければなりません。この件については、今後も引き続き追跡して参ります。